

修復完成記念特別公開

筑波大学の至宝

# 狩野探幽の屏風絵

2019年4月2日(火)～4月24日(水)

無入  
料場

筑波大学中央図書館 貴重書展示室 9:00～17:00

狩野探幽筆「野外奏楽・猿曳図」(修復前)

## 報告会

「狩野探幽筆 紙本墨画 野外奏楽・猿曳図  
六曲一双屏風の保存修理について」

日時 4月16日(火) 14:00～16:00

会場 中央図書館集会室

報告者 池田和彦氏(株) 修護 代表取締役)

## 交通案内

※可能な限り公共交通機関をご利用ください。

[つくばエクスプレス]つくば駅下車

[JR 常磐線]土浦駅・荒川沖駅

・ひたち野うしく駅下車

[関東鉄道・JR バス関東つくば～東京駅線

(東京駅八重洲南口発)]

つくばセンター下車

↓バス乗り換え

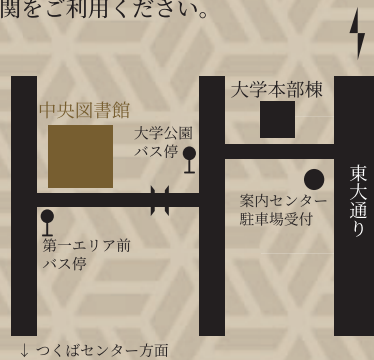
筑波大学中央行

筑波大学循環(右回り)

→「第一エリア前」

筑波大学循環(左回り)

→「大学公園」



「二条城障壁画」等の名画を遺し、江戸時代の日本絵画の基調を作った天才画家・狩野探幽。筑波大学附属図書館が所蔵している探幽筆六曲一双屏風「野外奏楽・猿曳図」は、経年劣化した状態でしたが、このたび出光文化福祉財団より助成をいただき、美しく修復し文化資源の継承にもつながりました。現代の古美術修復技術と、よみがえった探幽の名画をお楽しみください。

主催：筑波大学附属図書館

公益財団法人出光文化福祉財団 美術品修復助成

## お問合せ

筑波大学附属図書館 古典資料担当

TEL: 029-853-2376 / E-mail: voice@tulips.tsukuba.ac.jp

# TANYU KANO

筑波大学は、明治5年（1872）に東京に設置された我が国初の教員養成機関であった師範学校を創立の基とする。師範学校は、前年に閉鎖された幕府教学の拠点であった湯島聖堂内の昌平坂学問所の一部を受け継いでいる。このため、本学には、湯島聖堂由来の歴史的資料が数多く伝来している。

今回、展示する狩野探幽（1602-1674）による「野外奏楽・猿曳図屏風」も、この湯島聖堂に由来する可能性が高い作品である。江戸時代を代表する絵師の狩野探幽は、幕府に仕えた御用絵師で、名古屋城本丸御殿障壁画や妙心寺法堂天井画など、多数の作品が残る。水墨を基調とする余白を生かした瀟洒淡麗とも言える画風が特徴的であり、祖父の永徳を象徴する絢爛豪華な桃山絵画を一変させ、その後の江戸絵画に大きな変革をもたらした絵師である。

本図の右隻には、松樹下での琴、笛、鉦、太鼓などの奏者、舞い踊る人物と子どもを抱く婦人が描かれている。人物たちは、筆数の少ない淡い墨線によって描き出されている。近景のモチーフを画面右下にまとめ、その対角線上に遠景の山並を淡墨で描く。左隻には、画面中央に猿曳、その周囲に観衆が配されている。右隻と同じく近景のみで描出され、対角線を意識した構成で、余白を生かした穏やかで平面的な画面が写し出されている。制作年代としては、「探幽斎筆」の落款があることから、いわゆる「斎書き」時代の寛永12年（1635）から万治3年（1660）の間と考えられる。本図の画題については、それを示唆する資料が皆無であるため、便宜上「野外奏楽・猿曳図」のタイトルを付けている。楽器を演ずる人物や猿曳の図様は、幾つかの先例の中に点景として見出すことができる。探幽は、過去の作例からモチーフの分解と再構成をおこない、新たな画題を創り出したのである。

筑波大学芸術系助教 水野裕史

筑波大学附属図書館 Facebook

修復の過程をご覧になれます



<https://www.facebook.com/tsukubauniv.lib>

背景写真：修復のようす。修復工房にて。  
2019年1月撮影